

令和元年6月17日現在

機関番号：12201

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2014～2018

課題番号：26245056

研究課題名（和文）将来の「下層」か「グローバル人材」か-外国人児童生徒の進路保障実現を目指して

研究課題名（英文）Future "Lower Class" or "Global Human Capital" -Aiming to Ensure Access to Education for Foreign Students in Japan after Junior High School Graduation

研究代表者

田巻 松雄（TAMAKI, MATSUO）

宇都宮大学・国際学部・教授

研究者番号：40179883

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 31,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、高校へ進学できなかった外国人生徒と進学できた外国人生徒の高校進学をめぐる状況とかれらの進路（職業）の実態を明らかにして、外国人児童生徒教育のあり方について提言することを主な目的とした。ポルトガル語、中国語、フィリピン語、スペイン語を母語とする生徒を取り上げ、かれらの高校進学/非進学の背景を分析した。また、アクティブ・アクションである進路保障の現状と課題に関する分析を試みた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

高校進学できない外国人生徒や高校を中退してしまう外国人生徒は「下層」として固定化されていく可能性が高い。一方で、外国人生徒は「グローバル人材」の候補生でもある。かれらが「下層」として固定化されていくことを抑止し、「グローバル人材」として成長していくことを支える研究が強く問われている。本研究は、社会学的視点を中心に、外国人生徒の進学とキャリア形成の関係および進路保障の現状と課題について分析を試みた。

研究成果の概要（英文）：This research has shed light on the conditions surrounding the education and job perspectives of foreign students right after junior high school graduation in Japan. It has also suggested education policies toward the support of the target population. The current research that includes students whose mother tongues are Portuguese, Chinese, Filipino and Spanish, has analyzed the different backgrounds of those who have pursued high school, as well as those who could not go on to the next level after junior high school graduation. Finally, it has also attempted to address topics pertaining to affirmative action measures, such as to ensure access to education, its current trends and related issues.

研究分野：社会学

キーワード：外国人児童生徒教育 下層 グローバル人材 進路保障

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

研究代表者は2010年から、科研代表者として、非正規滞在者・日系南米人・中国朝鮮族の子どもたちの教育・生活状況を比較分析する共同研究に従事してきた。また、2つの文科省特別経費プロジェクトの代表者として、「グローバル化に対応する人材養成と地域貢献 多文化共生社会実現のための外国人児童生徒教育・グローバル教育の推進」および「北関東を対象とする外国人児童生徒支援のための地域連携事業」を展開してきた。以上の諸研究の中には、外国人生徒の高校進学に関する継続的な調査が含まれているが、高校進学/非進学の条件分析、高校進学問題をめぐる地域格差、進路(職業)と結び付けて外国人生徒の高校進学の意味を多角的に分析する研究が必須の課題となっていることを痛感し、本研究を構想した。

### 2. 研究の目的

定住化傾向を強める外国人生徒は、どのような就学コースを経て、どのような職業に就いているのか。本研究は、高校へ進学できなかった/進学しなかった外国人生徒、進学できた外国人生徒それぞれの、高校進学をめぐる社会関係資本とかれらの進路(職業)の実態を明らかにして、外国人児童生徒教育のあり方について研究・提言することを目的とする。

ポルトガル語、中国語、フィリピン語、スペイン語を母語とする生徒を取り上げる。かれらが高校進学に至った/至らなかった過程を大きく左右した要因を「客観的条件」と「意味世界」の領域に分けて整理し、それらの相互の関係について分析する。また、進路(職業)と結び付けて外国人生徒の高校進学/非進学の意味を多角的に分析し、かれらの進路保障の在り方について提言する。

### 3. 研究の方法

外国人生徒が置かれている状況や直面している問題は、国籍や母語によって異なる側面がある。文科省「日本語指導が必要な外国人児童生徒の受入れ状況等に関する調査」(平成24年5月)によると、日本語指導を必要としている児童生徒の母語別状況は、ポルトガル語32.8%、中国語20.4%、フィリピン語16.6%、スペイン語12.9%で、この4言語で8割を超えている。本研究は、母語・国籍間の相違や格差を分析するため、4言語を母語とする外国人生徒すべてを対象とする(国籍別では、ブラジル、中国、フィリピン、ペルー)。外国人児童生徒教育の実情においては、「地域格差」が大きいことが指摘されてきた。自治体により異なる事情としては、過年の適用、外国人生徒入学者への就学案内・通知、高校受験の特別枠や特別措置の有無、定時制高校の数と定員、などがある。外国人生徒の高校進学過程の分析は、「地域格差」の実情を明らかにするものでなければならない。本研究は、北関東(栃木・茨城・群馬県)を主な対象としつつ、必要に応じて他の地域の実情も分析に加える。

5年間の研究期間のなかで明らかにする課題は、第一に、北関東における外国人生徒の高校進学状況の把握である。研究代表者は、栃木県内のすべての公立中学校を卒業した外国人生徒の高校進学状況を3年間継続的に調査してきたが、その方法を茨城県・群馬県にも応用したいと考える。第二に本研究が最も重視するのは、1)高校進学を希望せず、高校進学しなかったケース(不就学や小学校や中学校でドロップアウトした場合を含む)、2)高校進学を希望したが、進学できなかったケース、3)高校進学を果たしたが、高校を中途退学したケース、4)高校進学を果たし、高校を卒業後、就職したケース、5)高校進学を果たし、高校を卒業、さらに進学をしたケース、6)小中高のどこかの段階および高校卒業後に本国に帰国したケースの6つの就学コースに基づき、母語別に25~35人程度のサンプルを抽出し、アンケートや聞き取りなどを通じて事例分析することである。

### 4. 研究成果

本研究は、高校へ進学できなかった/進学しなかった外国人生徒、進学できた外国人生徒それぞれの、高校進学をめぐる社会関係資本とかれらの進路(職業)の実態を明らかにして、外国人児童生徒教育のあり方について研究・提言することを目的とするものであった。ポルトガル語、中国語、フィリピン語、スペイン語を母語とする生徒を取り上げ、かれらが高校進学に至った/至らなかった過程を大きく左右した要因を「客観的条件」と「意味世界」の領域に分けて整理し、それらの相互の関係について分析することを試みた。また、アクティブ・アクションである進路保障の現状と課題に関する分析も試みた。

3年目までは、それまでの研究成果を主にシンポジウムの開催により発信した。

4年目と最終年度には、研究成果をシンポジウムの開催により発信するとともに、報告書としてまとめて刊行した。シンポジウムでの報告題目と報告書に掲載された論文題目を記す。田巻松雄「外国にルーツの若者を取り巻く状況」金英花「中国にルーツを持つ若者の進路調査報告」高畑幸「水産加工業と外国人労働者をめぐる現状」高畑幸「静岡県焼津市におけるフィリピン日系人」横溝環「茨城県大洗町における外国人」(以上、シンポ報告)。田巻松雄・鈴木典子・中野真紀子「外国人生徒の学ぶ場一定時制通信制課程、夜間中学、多文化共生センター東京」小波津浩「真岡市の製造業の発展経緯と外国人住民の生活〜ペルー人住民に生活環境に焦点をあてて〜」(以上、論考)。

最終年度である平成30年度は、最終的な研究成果をシンポジウムの実施により発信すると

もに、報告書としてまとめて刊行した。以下に、報告書に掲載した論考の題目を記す。高畑幸「フィリピンにルーツを持つ子どものアスピレーションと進路選択」、金英花「中国系移民二世の高校進学、大学進学、キャリア形成に至るまで」、小波津ホセ「ペルー人第2世代の進学～親の学歴、家庭環境と29人の学歴の関連性～」、小池亜子・若林秀樹「在日日系ブラジル人第二世代の学校経験と進路選択」、立花有希「ドイツにおける進路保障」、「After Japan: Second-Generation Peruvians and Career Building in the Homeland」、Maria Rosario Piquero-Ballescás, Orlando G. Ballescás・高松宏弥「日本におけるフィリピン人の子どもの教育問題」、田巻松雄「高校入試における特別定員枠の現状と課題」、稲葉奈々子・樋口直人「ペルーにルーツのある若者のライフストーリー」(資料)。本研究の成果と課題を踏まえ、研究代表者は新しい研究課題「外国人生徒の学びの場に関する研究－特別定員枠校と定時制・通信制課程の全国調査」を進めることとした。

なお、研究成果の一部は英語で発信したが、当初計画していたような多言語での発信は出来なかった。

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計6件)

田巻松雄「外国人児童生徒から『不法滞在者』へ日系人Mの日本での20年」『エモーション・スタディーズ』4、2019年2月、6-16頁。査読有。

アナ・スエヨシ、"Second-Generation Peruvians in the Homeland: Debunking the Trade-off Myth between Economic and Moral Well-being", 『宇都宮大学研究論集』47、2019年、77-90頁。査読無。

田巻松雄「栃木県における外国人生徒の進路状況－8回目の調査結果報告」『宇都宮大学国際学部研究論集』46、2018年、73-78頁。査読無。

高畑幸「東海地方における移住労働者のエスニシティ構成の『逆転現象』 静岡県焼津市の水産加工労働者の事例」『日本都市社会学会年報』36、2018、147-163頁。査読有。

小池亜子「移民に対する言語教育政策 日本の現状と課題」『政治研究』10、2018年、149-158頁。査読有。

田巻松雄、高畑幸、Maria Rosario Piquero-Ballescás「フィリピンにルーツを持つ若者の進路選択に関する意識調査 数量調査と事例から」『宇都宮大学国際学部研究論集』42、2017年2月、133-159頁。査読無。

[学会発表](計2件)

1 高畑幸「静岡県焼津市の水産加工業で働くフィリピン日系人 雇用と移住のプロセスを中心に」移民政策学会、2018年

2 アナ・スエヨシ Del hemisferio norte hacia el hemisferio sur: el "retorno" de la segunda generación, sus logros educativos y proceso de "readaptación" en el país natal 「Formación profesional en Perú: de la segunda generación de peruanos retornantes de Japón: un análisis bajo el enfoque de desarrollo de capacidades」, ALADAA カンファレンス、(国際学会) 2018年

[図書](計0件)

[産業財産権]

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

○研究分担者氏名：スエヨシ アナ

ローマ字氏名：Sueyoshi Ana

所属研究機関名：宇都宮大学

部局名：国際学部

職名：准教授

研究者番号（8桁）：10431694

○研究分担者氏名：小池 亜子

ローマ字氏名：Koike Ako

所属研究機関名：国土館大学

部局名：政経学部

職名：准教授

研究者番号（8桁）：10439276

○研究分担者氏名：稲葉 奈々子

ローマ字氏名：Inaba Nanako

所属研究機関名：上智大学

部局名：総合グローバル学部

職名：教授

研究者番号（8桁）：40302335

○研究分担者氏名：横溝 環

ローマ字氏名：Yokomizo Tamaki

所属研究機関名：茨城大学

部局名：人文社会学部

職名：准教授

研究者番号（8桁）：20733752

○研究分担者氏名：清水 奈名子

ローマ字氏名：Shimizu Nanako

所属研究機関名：宇都宮大学

部局名：国際学部

職名：准教授

研究者番号（8桁）：40466678

○研究分担者氏名：立花 有希

ローマ字氏名：Tachibana Yuki

所属研究機関名：宇都宮大学

部局名：国際学部

職名：講師

研究者番号（8桁）：60736198

○研究分担者氏名：高畑 幸

ローマ字氏名：Takahata Sachi

所属研究機関名：静岡県立大学

部局名：国際関係学部

職名：准教授

研究者番号（8桁）：50382007

○研究分担者氏名：バレスカス マリア

ローマ字氏名：Ballestas Maria

所属研究機関名：東洋大学

部局名：国際共生社会研究センター

職名：客員研究員

研究者番号（8桁）：70554905

(2)研究協力者

研究協力者氏名：小波津 ホセ

ローマ字氏名：Kohatsu Jose

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。